

予報期間 7月3日から7月9日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 5日から6日にかけて太平洋高気圧が日本の南から東シナ海に張り出し、高気圧の縁に沿って湿った空気が北日本に流れ込む。また、低気圧が沿海州からサハリン付近に進み、気圧の谷が北日本を通過する。
- 6日から7日にかけて高気圧が朝鮮半島付近から日本海に移動する。
- 8日から9日にかけて日本の東の高気圧が北日本に張り出す。

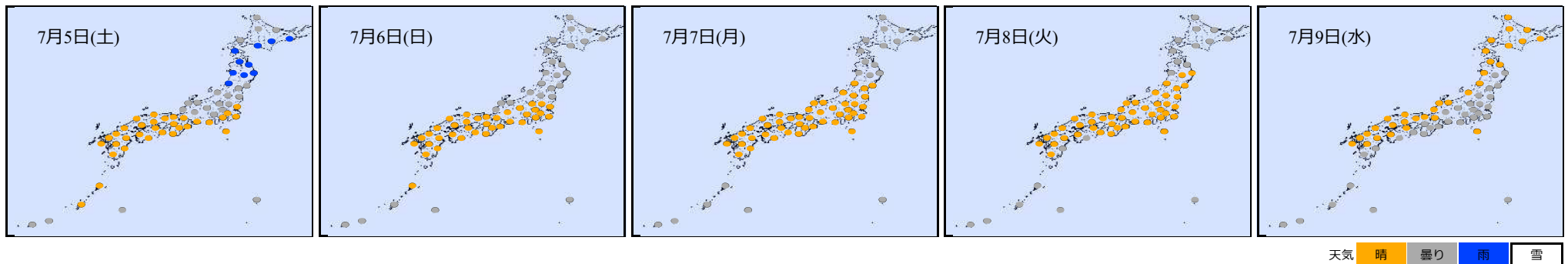
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

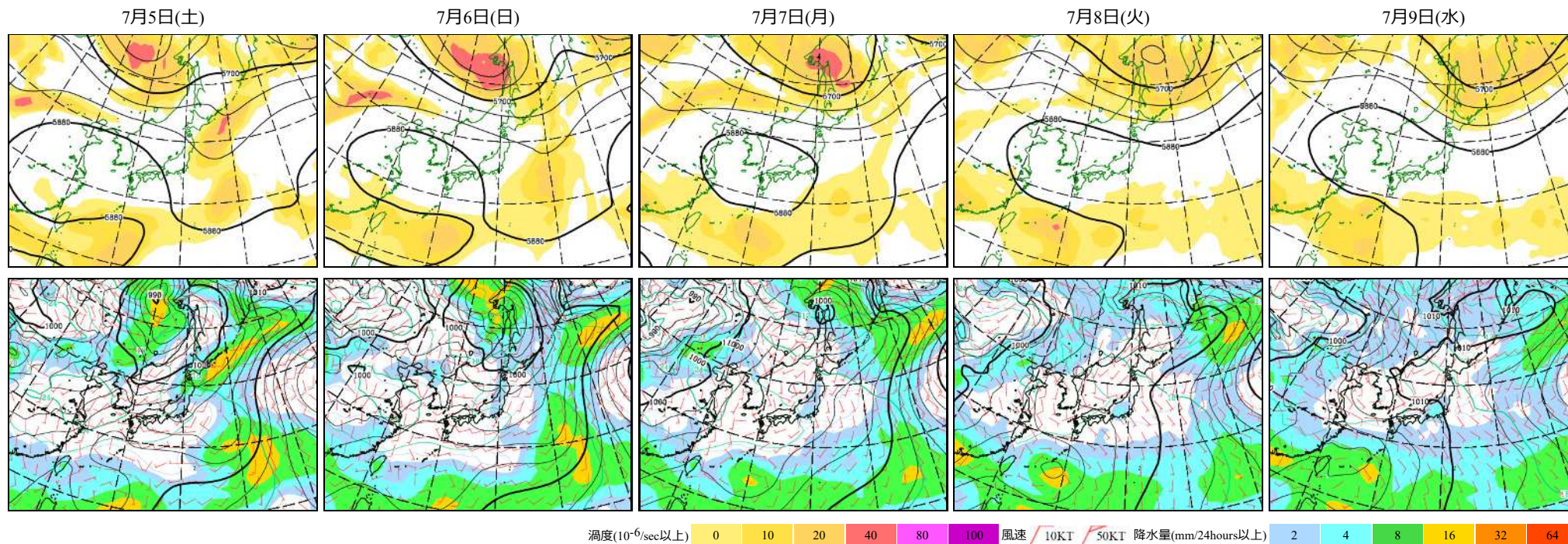
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

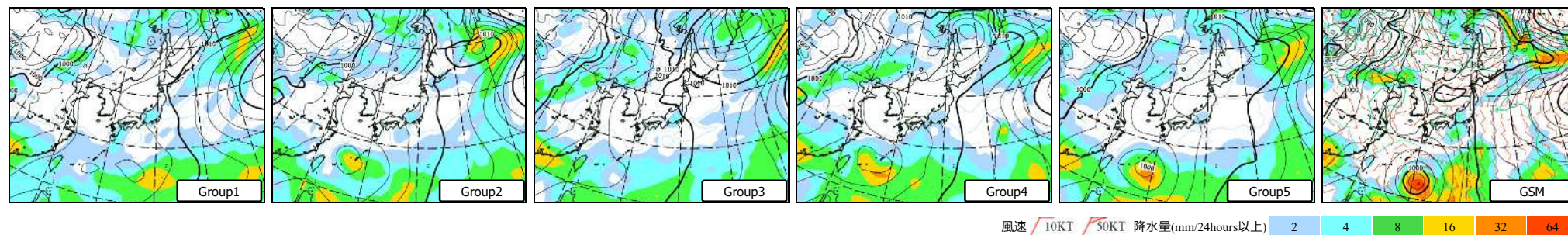


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、9日は晴れる所が多い。
- 東日本と西日本は晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は雲が広がりやすいが、5日と6日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月8日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、5日の降水確率ガイダンスの値が北海道で低くなった。7日から8日にかけてサブハイの日本付近への張り出しが強くなった。
- 熱帯じょう乱はどのモデルも沖縄の南と本州の南東に予測するようになったが、位置や強さのバラつきは大きい。スプレッドは期間の後半は大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 熱帯じょう乱の位置や強さの予測はモデル間の差が大きい。沖縄の南のものは沖縄に近づくが週間の範囲では影響は見込まない。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。